

これまでの協議結果について

- **「摂津市地域公共交通計画」を作成**するため、交通事業者等の関係者で構成する**「法定協議会(※)」を設置**
- 加えて、本協議会の下部組織として、行政・交通事業者等の**実務担当者によって構成される分科会**を設置し、計画作成に向けた具体的な内容調整や、施策実施に向けた具体化・体制などについて協議・検討を行う
- 本協議会では、**分科会の協議結果を踏まえた事務局案**に対して協議を実施

<本会>

摂津市地域公共交通協議会

出席者のイメージ：

- ・ 摂津市各部署
- ・ 交通事業者
- ・ 近畿運輸局、大阪府、公募市民 等

会議公開形式：公開

- ・ 当日の傍聴可
- ・ 資料・議事録をHP掲載

・ 分科会の協議結果を踏まえた事務局案に対する意見

<分科会>

摂津市地域公共交通協議会 分科会

出席者のイメージ：

- ・ 交通事業者
- ・ 近畿運輸局 等

会議公開形式：非公開

- ・ 当日の傍聴不可
- ・ 資料等の掲載なし

・ 計画の具体的な内容検討(方針・施策等)
・ 施策実施に向けた進め方・体制の検討

これまでの協議状況について

	日 時	内 容
第1回協議会	令和6年2月26日(月) 14:00~15:00	・地域公共交通協議会の設置について ・規約・規程(案)の承認について ・役員の選出について ・事業計画(案)及び予算計画(案)について ・地域公共交通計画について
第1回分科会	令和6年2月26日(月) 15:00~16:30	・分科会の進め方 ・摂津市の計画目標・方針に関する意見交換 ・今後のスケジュール
第2回分科会	令和6年4月25日(木) 14:00~16:00	・第1回分科会の振り返り ・計画目標及び想定される施策に関する意見交換 ・今後のスケジュール
市民委員との協議①	令和6年5月15日(水) ／令和6年5月17日(金)	・第2回協議会に向けた事前説明
第2回協議会	令和6年5月21日(火) 10:00~11:00	・令和5年度 摂津市地域公共交通協議会決算報告について ・令和6年度 摂津市地域公共交通協議会 予算計画(案)及び事業計画(案)について ・第1回協議会の振り返り及び分科会の協議結果について ・摂津市の計画目標(案)及び想定される施策イメージについて ・今後のスケジュール
第3回分科会	令和6年7月5日(金) 13:00~15:00	・第2回協議会の振り返り ・計画目標の達成に向けた施策及びKPIに関する意見交換 ・今後のスケジュール
市民委員との協議②	令和6年7月29日(月) ／令和6年8月1日(木)	・第3回分科会の結果共有 ・「計画推進にあたっての役割分担」についてワークシートの作成を依頼
第4回分科会	令和6年8月29日(木) 10:00~12:00	・第3回分科会及び市民委員との協議の振り返り ・計画目標の達成に向けた施策及びKPIに関する意見交換 ・今後のスケジュール

第2回協議会の振り返り

第2回協議会の実施概要

<実施日時>

令和6年5月21日（火） 10:00～11:00

<内容>

- ・令和5年度 摂津市地域公共交通協議会決算報告について
- ・令和6年度 摂津市地域公共交通協議会 予算計画（案）及び事業計画（案）について
- ・第1回協議会の振り返り及び分科会の協議結果について
- ・摂津市の計画目標（案）及び想定される施策イメージについて
- ・今後のスケジュール

<出席者>

種別	所属	氏名
市長又はその指名する者	摂津市 建設部	永田 享
交通事業者	西日本旅客鉄道株式会社	中嶋 和政
	阪急電鉄株式会社	阿瀬 弘治
	大阪モノレール株式会社	中川 義彦
	阪急バス株式会社	田中 祥敬
	近鉄バス株式会社	松永 智也
	京阪バス株式会社	北西 進太郎
	阪急バス労働組合	石崎 宏司
道路管理者	大阪府 茨木土木事務所	田口 靖之
	摂津市 建設部	吉田 菜津子
国土交通省	近畿運輸局大阪運輸支局	釈迦戸 久夫
	近畿運輸局大阪運輸支局	大石 信太郎

▼第2回協議会の実施状況



種別	所属	氏名
公安委員会	大阪府警察 摂津警察署	島谷 達也
公共交通利用者	公募市民	森田 恵子
		林 沙也加
学識経験者	大阪大学 大学院	土井 健司
		青木 保親
		葉 健人
その他	大阪府 都市整備部	井本 昌彦
	摂津市商工会	島内 嘉紀
	摂津市 市長公室	寺田 荘史
	摂津市 生活環境部	鈴木 誠
	摂津市 保健福祉部	由井 秀子
	摂津市 保健福祉部	細井 隆昭
	摂津市 保健福祉部	坂本 敦志

第2回協議会の意見概要

■公共交通の確保・維持に向けた考え方について

- ・これまで民間事業者が移動需要にあわせてサービス供給をしてきたが、既に民間事業者だけでは運営が成り立たなくなっている状況である。これまで行ってきた輸送力や運転手労働力の再分配・見直しでは解決が難しく、これからは、移動需要を再分配する形で需要と供給のバランスをとっていく必要がある。

■計画目標について

- ・30～50年先も公共交通を維持していくためには、自動運転等の技術活用が欠かせない。また、昨今のまちづくりでは、カーボンニュートラルの考え方で進めていくことも増えてきているため、これらの観点も盛り込んだ方がよい。
- ・庁内検討案で整理されていた「道路空間の安全対策」が観点としてなくなっているため、記載した方がよい。

■施策に関連する内容について

- ・現状のセッピー号が地域の移動ニーズと合致していない。無料でなくてもよいので、車両を小型化する等、もっと地域内まで入ってこれるような形に見直してほしい。
- ・市民からすると、どのバス会社が運行しているかよりも、どこに行けるのか(目的地)が重要なので、バス会社同士で競争しあうのではなく、協調・連携しながら、使いやすくなっていけばよい。

■KPI(評価指標)について

- ・5年先の中間目標に対してKPIを設定していると思うが、30～50年先の達成状況を確認するKGIも必要ではないか。
- ・「ラストマイルの手段確保」の評価指標には、利用者の生活実感がどう変わったかや地域の人がどう暮らしやすくなったか等の観点も盛り込めたらよい。

■その他

- ・まずは公共交通の運行に関する住民のニーズをきちんと把握した上で、改善につなげていく必要がある。

【第2回協議会の結果を踏まえた対応】

- 計画目標にキーワードを追加するとともに、対応するSDGs(持続可能な開発目標)を整理する。
- 目標達成に向けて必要となる施策やKPIを引き続き検討する。なお、本計画は5年間の計画として位置付けるため、評価指標は5年後の目標の達成状況を確認する指標として整理する。

分科会の協議結果

第3回分科会の実施概要

＜実施日時＞

令和6年7月5日（金）13:00～15:00

＜内容＞

- ・第2回協議会の振り返り
- ・計画目標の達成に向けた施策及びKPIに関する意見交換
- ・今後のスケジュール

＜出席者＞

▼第3回分科会の実施状況



種別	所属	氏名
学識経験者	大阪大学 大学院 工学研究科 地球総合工学専攻 社会基盤工学コース	青木 保親
		葉 健人
交通事業者	西日本旅客鉄道株式会社 阪奈支社 地域共生室	中嶋 和政
	阪急電鉄株式会社 都市交通事業本部 沿線まちづくり推進部	阿瀬 弘治
	大阪モルレル株式会社 運輸部 業務課	藤原 智明
	阪急バス株式会社 自動車事業本部 営業企画部 兼 新モビリティ推進部	野津 俊明
		田中 祥敬
		外村 健太
	近鉄バス株式会社 営業部乗合営業課	寺井 孝次
	京阪バス株式会社 経営企画室	北西 進太郎
	株式会社国際興業大阪 摂津営業所	庄司 拓也
	阪急バス労働組合	石崎 宏司
道路管理者	大阪府茨木土木事務所 地域支援・企画課 企画グループ	田口 靖之
国土交通省	近畿運輸局大阪運輸支局 総務企画部門	荻屋 翔
	近畿運輸局大阪運輸支局 輸送部門	大石 信太郎
摂津市	建設部 道路交通課	永田 享
	生活環境部 産業振興課	緒方 聡輔
その他	摂津市商工会	島内 嘉紀

第3回分科会の意見概要

■計画目標について

- ・観点①「ラストマイルの手段確保」は、5年先の目標自体にも「ラストマイル」という表現が用いられている。目標に「ラストマイル」という表現を用いるのであれば、観点にはもう一つ上位の概念を記載した方がよいのではないか。
- ・骨子案の将来イメージ図は、各交通モードにアクセスする場面が表現されているが、計画目標の達成により実現される状況がイメージできるように、暮らし・賑わいの場面を表現した方がよい。

■施策について

- (全 体)・計画目標の実現に向けて、本市で取り組んでいくべき施策・取組の観点について意見交換。実際に5年間で実現が可能かやその進め方・体制等については、次回以降の分科会・協議会で引き続き議論。
- (施策①)・セッピー号や市内循環バスの再編は、路線バスを軸としてそれを補完する形で見直しを検討していくのでよい。
 - ・ラストマイルのカバーとして、モビリティハブを各地に配置して、そこまでの移動を確保する考え方もある。
- (施策②)・自動車抑制の取組として、複数企業間でのカーシェアリングだけでなく、デイスサービスの共同送迎も考えられる。
- (施策⑤)・市民からすると“どのバスに乗るか”よりも“どこにたどり着けるか”が重要である。交通事業者間の連携によるサービス・情報の一体提供等、MaaS(Mobility as a Service)の推進に取り組んでいくのもよい。
- (施策⑥)・実際にバスに乗車して、乗り方やどこに行けるか等を知ってもらうことも重要であるため、公共交通の乗車体験もモビリティマネジメントとして取り組んでほしい。
 - ・住民や転入者だけでなく、自治体職員等に対するモビリティマネジメントにも取り組んでほしい。

■KPI(評価指標)について

- ・提示されているKPIは、実際にデータを取得できるものとできないものが混在しているため、まずは事務局でデータ取得可否について整理が必要である。

【第3回分科会の結果を踏まえた対応】

- 分科会意見を踏まえて計画目標の表現、イメージ図を見直し
- 加えて、施策・取組メニューの追加・再整理を行い、事業者・組織・市民が実際にできること等についてヒアリングを実施
- KPIは、指標として適切かどうかやデータ取得可否等を検討し、各目標ごとに1～2つ程度の指標に絞り込み

第4回分科会の実施概要

＜実施日時＞

令和6年8月29日（木）10:00～12:00

＜内容＞

- ・これまでの振り返り（第3回分科会、市民委員との協議結果）
- ・計画目標の達成に向けた施策及びKPIに関する意見交換
- ・今後のスケジュール

＜出席者＞

▼第4回分科会の実施状況



種別	所属	氏名
学識経験者	大阪大学 大学院 工学研究科 地球総合工学専攻 社会基盤工学コース	青木 保親
		葉 健人
交通事業者	西日本旅客鉄道株式会社 阪奈支社 地域共生室	中嶋 和政
		今井 香陽子
	阪急電鉄株式会社 都市交通事業本部 沿線まちづくり推進部	阿瀬 弘治
	大阪モルレル株式会社 運輸部 業務課	藤原 智明
	阪急バス株式会社 自動車事業本部 営業企画部 兼 新モビリティ推進部	田中 祥敬
		外村 健太
	近鉄バス株式会社 営業部乗合営業課	寺井 孝次
	京阪バス株式会社 経営企画室	北西 進太郎
	千里丘タクシー株式会社	松浦 宏樹
道路管理者	大阪府茨木土木事務所 地域支援・企画課 企画グループ	田口 靖之
国土交通省	近畿運輸局大阪運輸支局 輸送部門	大石 信太郎
摂津市	建設部 道路交通課	永田 享
	生活環境部 産業振興課	緒方 聡輔
その他	摂津市商工会	島内 嘉紀

第4回分科会の意見概要

■計画目標について

・交通手段の確保だけでなく、移動がもたらす市民の生活・暮らしの様子が表現された目標・将来像になっていてよい。

■施策について

(施策①)・狭い道を走行できるように車両の小型化を行うと、車いす利用者が乗車するスペースを確保できなくなる等、全てのニーズを満たすことは難しく、あるニーズに対応すると一定の不便が発生することも留意が必要である。

・本格運行が5年先というのは市民に納得頂けないのではないかと。できるところから前倒しで実施できるとよい。

・公共交通の見直しは、3～5年をかけて長期的に実施することが多い。将来的には、利用者のニーズや利用状況に応じて、アジャイル型で短期的に見直しを行っていくことも求められてくると考える。

・他市のように、将来的には公共交通の見直しを市民が主体的に実施していくことも考えられる。今のうちから、行政と協働して公共交通の見直しを進めていける市民や団体を探して、意見交換や関係性構築を行っていけるとよい。

(施策②)・公共交通への利用転換を促すのであれば、事業者だけでなく市民へのインセンティブも必要である。

(施策③)・自転車の利用促進には、利用者自身のマナーアップも必要であるため、市民の役割として位置づけてほしい。

(施策⑤)・交通モードを統合したマップは、行政と交通事業者だけで作成するには情報確認等の負担が大きい。また、ユーザー目線のマップとなるように、市民にもマップ作りに協力してもらえるとよい。

・消費喚起を目的とした「セッピスクラッチ事業」では店舗と連携したサービス提供の実績もあり、公共交通利用者への特典・インセンティブも可能であると想定される。

(施策⑥)・ワークショップやセミナーへの参加を促していくことは重要であるが、公共交通の利用促進を主体的に取り組む組織の立ち上げにつなげる等、参加してもらった市民に今後どう活躍してもらうかは考えておく必要がある。

■KPI(評価指標)について

・提示したKPIをベースに進めていき、計画目標の推進・達成状況の確認に必要なデータは各交通事業者から提供する。

【第4回分科会の結果を踏まえた対応】

○ 分科会意見を踏まえて、施策・取組メニューの精査・ブラッシュアップを実施

○ KPIは、指標の考え方や算出方法等を精査し、現況値を算出

市民委員との協議結果

市民委員との協議結果

○計画を推進していくためには、地域公共交通に関わる皆が同じ目標に向かって、各者の立場で活動すること(協働)が重要。

○市民委員は、協議会のみでの出席となるが、常に分科会と連動・連携して協働の役割をしっかりと果たして頂く必要がある。

⇒より実効的な地域公共交通計画としてくため、公募市民委員とも協議を実施

	日時	協議内容	意見等
市民委員との協議 ①	令和6年5月15日(水)／令和6年5月17日(金)	・第2回協議会に向けた事前説明 ⇒協議内容について事前に説明を実施 ⇒あわせて、公募市民委員としての考えを確認	・<u>北別府地域で独自アンケート</u>をとり、4割程度回収した。行きたいところで多く挙げられたのはコーナン鳥飼西店、南摂津駅、病院、公民館で、現在はこれらの場所に<u>高齢者がバスで直接行けない状況</u>。 ・計画を策定しても、<u>住民のニーズと乖離していたら意味がない</u>。バスのルート変更や小型バスの利用など、スピード感をもって柔軟性のある新しい方法に取り組んでほしい。 ・<u>有料であっても小型バスを走らせてほしい</u>との意見もある。
市民委員との協議 ②	令和6年7月29日(月)／令和6年8月1日(木)	・第3回分科会の結果共有 ⇒協議結果について説明を実施 ・「計画推進にあたっての役割分担」についてワークシートの作成を依頼 ⇒計画目標の推進・達成に向けて、市民としてできることや摂津市として取り組むべきこと等について考えを確認	・バスの路線や乗り方を知らないことで避けて乗らないことがあるため、<u>まずはわかりやすく知ってもらうことが大事</u> ・免許返納後の高齢者(現在は自転車利用)をみていると、自分自身の30～50年後を想像でき、公共交通の大切さを感じている。 ・鶴岡市への視察については、<u>こういった年代の利用者が多いかなどを把握してきてほしい</u>。 ・鳥飼地域は事業所が多いので、市民や事業所のニーズを取り込みながら<u>事業所が多いという強みを活かして公共交通を維持してほしい</u>(事業所従業員専用の送迎バスを有効活用できないか等)。 ・商業施設とタイアップし、バス利用の特典を考えたり、各バス停付近のお店の情報を提供したりと、<u>バス利用者の興味が湧き、メリットを感じられる施策</u>があればと思う。 ・大阪市高速電気軌道株式会社が大阪・関西万博に向けてバス運転手の募集をしているが、必要人員の確保が厳しい状況で、大型第二種免許を取得する場合の取得費を、万博開催期間中、万博輸送バスの運転業務に従事することを条件に負担すると聞いた。<u>バス運転士を確保するには、万博後が絶好の機会</u>と考える。